

2025年度 自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

社会医療法人仁厚会 認知症高齢者グループホーム北条 れんげ村

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	事業所理念は、部署内に掲示し、フロア会でも職員間で確認、共有出来ている。管理者、職員は理念を共有してサービスの実践に繋げている。			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	季節ごとに地域行事に参加し地域とのつながりがもてている。施設内では地域からのボランティア喫茶や音楽演奏に参加することで地域の馴染みの方から話しかけてもらうこともあります。地元地区では、夏祭りに参加しご利用者、職員で歌を披露した。お盆には夕方から万燈に参加、秋には神社のまつりで地域の方との交流ができた。又自治会からは毎月広報誌を配布してもらい利用者へ回覧している。 認知症ケア向上連絡会では、今年度もオレンジガーデニングで地元のこども園にいき認知症の啓発とともに、マリーゴールドの種植え等を行い園児との交流ができた。今後も継続的な交流ができるようにと10月には園児41名が来所し体操や歌を披露してもらった。9月には恒例の地域密着型事業所5事業所での合同運動会に参加し他事業所ご利用者との交流もできた。年間を通して地域の一員として交流ができている。	・A「充分できている」とB「ほぼできている」はどの部分でBなのか、Aになるためには何ができるのか。充分にできているとは何をもって充分となるのか。何を目指していくのかを考えていく。 まだこうしたいなという思いが残っていれば、「ほぼ」となるのか。 ・交流が継続できているのは良いが園児に「披露してもらった」の表現は訂正したほうが良い。こちら側からのアクションなど追記したほうが良いのでは。受け身ではなく一緒に活動することで相互交流が継続できた表現が良い。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	定期的に会議を開催しグループホームの現状や取り組みについて報告を行っている。リスク報告ではご意見を元に説明、話し合いを行いリスク再発防止に取り組んでいる。又運営	・それぞれに合った取り組みができるので「充分にできている」でも良いのです。		

				推進会議でのご意見等はフロア会で報告し職員間で共有しサービス向上に活かしている。			
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	状況に応じて報告し相談を行っている。市町村担当者とは、運営推進会議を通じて事業所の現状を伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。入退去、待機者数等の状況を毎月報告も行っている。	・地域包括とも連携を取り分からないことがあれば電話にて相談している。 近い関係性ができている。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	代表者は、施設全体として、身体拘束ゼロに向け取り組みや職員への研修を行い身体拘束に関する理解を高めている。日中は玄関施錠はせず危険な行動には注意し見守りを行っている。居室内では見守りセンサーを使用しご利用者の安全を確認している。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・1階と2階で異なる対応あり。状況に応じて施錠を行うこともある。(職員が一時的に一人になることがある。) ・「生命の危険」の判断は誰が、どう判断するか。組織、委員会での判断が必要ではないか。 ・入居者様本人が外へ出られるのは自由だが外出されてからの対応が難しい。(どこまでも歩いて行く、帰所の際拒否あり) ・今の時代不審者の侵入を防ぐために施錠するということもある。利用者が出たいときに対応ができるれば家族としてはいいのかなと思う。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	管理者や職員はフロア会で現状の確認を行い、虐待のないケアの理解を図り全職員で虐待の芽チェックを実施している。フロア会で現状の確認を行った。管理者や職員は高齢者虐待防止について研修を開催し学ぶ機会を持てている。 研修に参加出来ない職員についても動画視聴にて参加出来ている。		Ⓐ 充分にできている Ⓑ ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・年に1回の虐待の芽チェック実施。 ・研修に参加できない職員は、動画視聴での参加ができていれば充分にできているのではないか。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	成年後見制度、権利擁護に関する研修を開催し、理解を深めている。			
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	今年度は、現時点5件の入退去があり。契約時には理解、納得していただけるように説明を行っている。又不安や疑問点があればいつでも連絡してくださいと安心していただける声か			

				けを行っている。		
9	運営に関する利用 者、家族等意見の 反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者 や職員ならびに外部者へ表せる機会を 設け、それらを運営に反映させている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	住民集会(=月1回利用者の集会) で意見や日頃の利用者の声を聞き 取りサービスに反映させている。家 族アンケートを実施し、家族の要望 等も受け、運営に反映させている。 又集計結果は家族、外部(運営推進 会議、苦情委員会)へ報告している。 ご意見箱の設置を行っているが、ご 意見はなし。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・外部者に表せる機会はあるのか。仕組 みがあっても分かりにくいのでは。 →重要事項説明書に掲載しており入居 時に説明している。 ・アンケートの回収率が以前より低いと のことだが対策はとれているのか。
10	運営に関する職員 意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員 の意見や提案を聞く機会を設け、反映さ せている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	代表者、管理者は、年2回の面談や 毎月のフロア会議、日々の業務等の 中で、職員の意見を聴き反映に努め ている。 自己評価により職員の意見等の確 認を行っている。		
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や 実績、勤務状況を把握し、給与水準、労 働時間、やりがいなど、各自が向上心を 持つて働くよう職場環境・条件の整備 に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	代表者・管理者は、個人目標、人事 考課により職員個々の実績や勤務 状況等の把握をし、やりがいなどの 向上心を持って働くように努め ている。年1回ストレスチェック、腰痛ア ンケートを実施し職場環境・条件の 整備にも努めている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・労働安全衛生委員会を設置しており職 員の環境を報告し調整している。 法人にも相談センターがある。又面談、 ストレスチェック等行えているが個々に よってやりがい、求めるものが違う。 ・GHのストレスチェックの結果はどうか。 →施設全体でGHはストレスが少ない方 である。働きやすい環境になっているの では。
12	職員を育てる取り 組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケ アの実際と力量を把握し、法人内外の研 修を受ける機会の確保や、働きながらト レーニングしていくことを進めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	代表者は、職員個々のケアの力量 等を把握し、職員に合った研修を受 ける機会を確保している。 ・法人合同認知症リーダー育成研修 ・キャリアパス対応生涯研修リーダー 介護ラダー研修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ (介護職段階研修) 日本認知症グループホーム全国大 会in兵庫 など 認知症重度化予防実践塾 の研修参加あり。他施設内研修あり	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・「力量を図る」とあるがどうやって把握 しているのか。 →自己評価を行い面談や年1回の人事 考課で把握している。 ・最終的な面談の評価を面談にて伝え ているか。フィードバックを直接してみて は。 ・職員はほめてもらうことがやる気につ ながると思う。 まだ改善の余地があると思う。

13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	認知症ケア向上連絡会を通じて、研修会、北栄町事業所合同運動会の開催により利用者、職員ともに交流することができた。法人内のグループホーム間で事例検討会に参加し意見交換を行っている。活動を通じて部署内で共有しサービスの質の向上となるよう努めることができた。			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員は、本人の残存機能や得意な事等を把握し、家事や新聞整理など役割として職員と一緒に、時には自立して行えるよう支援している。又季節の作品づくりや行事の備品準備等も職員と一緒にすることで関係を築いている。			
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎月、要望を踏まえた外出行事(ふるさとドライブ、地元の神社への初詣等)を実施することにより馴染みの場所へ行けるよう支援している。地域ボランティアの方が来られた時には声を掛けてもらい地元の話をしたり、琴演奏では弟子が演奏しているのが分かりとても喜んでいる様子など馴染みの人に会う機会あり。他施設との交流場面でも地元の知り合いに会い話をされる様子があった。	・外出行事は具体的にまとめた表現にしては。 ・コロナ以降住民集会等出た意見を反映、個々に合わせた支援ができている。		

II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎月の住民集会や日々の生活の中で一人ひとりの暮らしや意向の把握に努め、プランに連動し反映できている。又入居時や担当者会議の中でご家族から在宅時の過ごし方や趣味等を聞きとり本人の状況に応じて無理のないように支援に反映している。			
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディ	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない	本人がより良く暮らせるよう、居室担当、計画作成担当者を交えて専門職(リハビリ、管理栄養士等)と本人の	・計画作成担当者だけでなく本人、家族を中心に計画書の作成に反映したほうが良い。継続的に行えるかが課題。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない	多職種から専門的な意見をもらえるのはありがたい。 ・歯科 Dr は参加は難しいため事前に意

		アを反映し、現状に即した介護計画を作成している	D. ほとんどできていない	現状に即した話し合いを行い意見を反映させている。担当者会議は家族の参加により本人と家族の意向要望を聞き取りより支援に繋げる事が出来ている。現状の課題やケアに対しての意見も反映し計画書を作成している。県外の家族には電話で様子を報告し要望や意見を聞き取っている。月1回モニタリングを行い、3か月に1回計画書の見直しを実施している。		D. ほとんどできていない	見を聴取して計画に反映させている。 ・質問を専門職に投げかけその結果は返しているのか。 →歯科Dr.には結果報告はしていない。歯科衛生士が月2回訪問あり必要に応じ継続的にみてもらっている。 ・継続していくことが大事である。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	介護計画書に基づいたケアを行い、電子カルテを活用し、計画に沿って支援した記録を個別に記入している。又、気づきがあれば記入し職員各々、電子カルテで情報を共有し、記録をもとに見直しに反映している。危険予知についても気づきを持ちひやりはっと報告書を提出し重大事故に繋がらないように情報共有を行っている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・申し送りは職員が個々に電子カルテを見に行く方式とのことだが情報共有がでいているのか。受け取り方に個人差があるのでは。 →適切な支援を行うために情報共有は必要であり口頭でもやり取りはしている。職員間に共有できる工夫をしている。 ・情報共有、申し送りの時間の確保、勤務内でできるのか。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者、家族ニーズに対応するため多職種(管理栄養士・歯科医師、歯科衛生士・言語聴覚士・理学療法士・老健看護師、社会福祉士、ケアマネ)との連携を図り柔軟なサービスとなるよう取り組んでいる。	・グループホームではできない支援の利用、既存のサービスとは何なのか。介護保険以外のサービス、インフォーマルなサービスの介入を検討していくことか。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	訪問散髪、防災活動で地域との協力体制、かかりつけ医へ定期的に通院を行い安心な暮らしを支えてもらっている。利用者要望での地域へのドライブや外食を行い豊かで楽しむ事が出来るよう支援も行えた。その人にとっての地域資源をより知る為に日頃の会話の中、担当者会議や面会時等に家族からの聞き取りも行い支援に繋げている。(買い物等)	・自動販売機、テイクアウト、移動販売、通院時の売店、外出、外食等利用できている。 ・地域からの情報も得ながら地域資源を活用していく。		

21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人、家族の希望に沿い、かかりつけ医の受診を行っている。法人の協力病院へ変更する際には十分な説明を行い、了承を得ている。定期的な通院、必要時での受診も行い主治医に状態報告を行う事で適切な医療が行えている。又家族への報告も行えている。現在電子カルテ活用し、法人医療機関とは情報共有ができる。協力病院とは月1回医療連携カンファレンスを行い迅速に対応できるように利用者の状態の情報共有を行っている。			
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入院時には関係者に必要な情報を提供し、安心、安全に治療できるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との連携を行っている。退院後については家族、関係機関や病院の連携室と相談を行っている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・連携病院と電子カルテにて情報共有している。 ・入院時より病院へサマリーの提供、情報共有し早期帰所できるよう連携室と相談を行っている。 ・「早期に退院」ではなく「帰所」の記述が良い。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	グループホームでは終末期ケアの対応はしていない。重度化した利用者については、併設している老健でより専門的な対応、看取りケアが出来る事を本人、家族へ説明、意向を確認し取り組んでいる。入院された方が重度化し退院後には老健に入所された利用者1名あり。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・文の初めに「入居時に終末期ケアの対応をしていないことの説明を行っている。」の記述があれば良い。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	老健看護師指導のもと急変時や事故発生時を想定したロールプレイを部署内で実施した。又施設内ではAEDを用いて心肺蘇生の研修を行い実践力を身に付けている。			
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	今年度は12月に南海トラフ巨大地震を想定した大規模災害時の避難訓練を地元地区の方と協力し実施予定している。起震車体験や消防職員	・大規模災害を想定した避難訓練を実施予定。 ・様々な災害を想定したうえで訓練をやっていく。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・訓練を実施した後あらためて課題が出てくると思うので協議し、情報共有していくこと。

				から震災時のミニレクチャーを予定。同時に食事提供訓練も予定している。地元地区とは災害時における協力に関する協定書を結んでおり協力体制を築いている。			
--	--	--	--	---	--	--	--

III. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	虐待の芽チェックで出た気づきを職員間で共有し自己のケアの振り返りを行った。その場での気づきはお互い注意し合える環境、関係づくりに努めている。人権研修に参加し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけができるよう心がけている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・職員間での言い合える関係つくりができている。 ・環境つくりも大切で、忙しい中でも配慮は必要である。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員は、一人ひとりの生活リズムを把握する事、意向要望を尊重し、個別ケアの取り組みに努めている。認知症の進行からどう過ごしていくのか分からない利用者も増えているが、好きな事を取り入れたレクリエーション支援を行っている。			
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	定期的に嗜好調査実施。利用者との会で要望を聞き、寿司等のテイクアウトや外食を行い楽しみを持てる機会をもうけている。季節に合ったおやつ作りや料理は職員と一緒に出来る力を活かしながら作業を行っている。給食ではテーブル拭きや自ら下膳の手伝いをする利用者もあり。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・現在給食であり調理はできていないがおやつ作りや行事食等で一緒に行っている。 ・利用者と職員が同じものを一緒に食べることもあるよ。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎日食事量、水分量の観察、記録を実施し健康管理を行っている。水分摂取量が少ない利用者には飲みやすいお茶ゼリーや好みの飲み物を提供し水分量の確保をしている。管理栄養士、言語聴覚士と連携し、一人ひとりに合った栄養の確保、状態に応じて、嚥下評価を実施し本人に合った食事形態を提供している。本人の力を活かした食事習慣となるよう			

				指導を受け支援している。		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	OMAT の体制を構築しており、利用者の状況に応じて、法人内による OMAT(歯科医師、歯科衛生士等専門職)で口腔内の確認、指導、助言を受けている。又月 1 回歯科医師に口腔ケアについて質問し助言をうけ適切な口腔ケアを行い毎食後清潔保持に努めている。	Ⓐ 充分にできている Ⓑ ほぼできている Ⓒ あまりできていない Ⓓ ほとんどできていない	・全員出来ているのか。 ・入居時には OMAT を実施している。、又、入居後も必要に応じて実施している。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や、排せつの自立に向けた支援、見直しを行っている。排泄交換回数や漏れによる更衣の削減、又利用者の排泄パターンの把握や皮膚トラブルの改善の為現在 1 名ヘルパッドを使用している。朝食時に乳製品の提供や、便秘傾向の利用者は主治医に相談し薬の調整を行っている。便秘予防に毎日の体操、散歩も行っている。現在布パンツ使用 1 名あり。	A. 充分にできている Ⓑ ほぼできている Ⓒ あまりできていない Ⓓ ほとんどできていない	・それぞれの自立があるためその人に合った物品、支援が重要になってくる。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	週 2 回の入浴を実施。本人の状態に合わせた対応をしている。拒否される方もあるが、足浴、清拭対応をしている。温泉のもとを入れ香りなど楽しみながら入浴している。		
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日中活動的に過ごして生活リズムを整え、夜間安眠出来るよう支援している。ソファや置ベッドを活用し安心して過ごせる居場所の提供を工夫している。		
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の症状の変化があれば、薬の効果や副作用について確認し理解している。又主治医に症状の変化について報告し用法や用量について相談し利用者の症状に合った服薬支援を行っている。	A. 充分にできている Ⓑ ほぼできている Ⓒ あまりできていない Ⓓ ほとんどできていない	・副作用等まず職員が理解しているのかが重要。 ・口の中に入れた後に吐き出すこともあります。飲み込み確認を慎重にすること。

35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	軽作業等や行事レクリエーションの際には1人1人の趣味や能力に応じた支援をおこなっている。職員や他利用者との交流、又、作品が完成した際には笑顔が見られ喜びのある時間が過ごせている。天気の良い日は散歩したりし、訪問販売、自販機や外へ買い物に出かけたりと気分転換ができる支援を行っている。	・利用者に楽しかったですかと聞くと「はい。」と返答してしまう。聞き方で返事が変わってくる。 その時の姿や表情で楽しんでもらっているのかを観察していく。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎月の利用者の集会で外出先の要望を確認し、ドライブ外出を計画し実施している。地域行事への参加も行った。(オレンジカフェ、こども園交流、運動会、地域のまつり、パチンコ外食など)天候の良い日には、散歩に出かけている。	・毎月定期的に行事、外出等行っている。外出前後の入居者の体調、状況把握が大切。 ・その人がやりたいことを引き出すのが大事。本人は伝えれないこともあり家族の協力を得て最大限に引き出し把握していく。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	現在お金を自己管理している利用者はなし。要望がある際は買い物支援を行っている。			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	希望に応じ家族と電話での支援もできている。年賀状や絵葉書に自分の思いを書き家族に送っている。 家族から喜びの声あり。			
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	床はバリアフリーとなっており、手すりを設置し、自立した生活が送れるように工夫している。共有空間にはソファなどの生活感や、季節の飾りと一緒に作成し取り入れている。外部ラウンドチェック体制により環境整備にも努めている。希望に応じテレビや音楽をかけ居心地よく過ごせるよう支援している。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない		・フロアの汚れが目立っている。ハード面での環境整備も必要。 ・雰囲気作りはできている。 ・転倒後の取り組みは環境作り、リハビリ職員による評価にて対策している。

IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)

40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日常の関わりや会話の中で本人の意向を確認しつつ、職員間で情報を共有し、日々のケアに反映させていく。			
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人や家族に生活歴や習慣などの情報を聞けるように、紐解きシートなどの活用を行っている。情報を元にケアやサービスに反映し支援している。			
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者本人は、職員が主治医や看護師、栄養士、リハビリスタッフ等、多職種と連携することで、健康面・医療面・安全面・環境面のケア・支援を受けている。健康面や安全面で変化あれば家族にも連絡し報告している。		Ⓐ 充分にできている Ⓑ ほぼできている Ⓒ あまりできていない Ⓓ ほとんどできていない	・誤嚥の対策はしているか。 →誤嚥対策として食事前の口腔体操や食事後の口腔ケアを行っている。又、誤嚥リスクの高い利用者は OMAT にて食事の評価を行い食事形態、食器類の変更等を行っている。
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人が、これまでの暮らしの習慣(洗濯たたみ、洗濯干し、食器洗い、新聞読み、読書など)が継続できるような支援に取り組んでいる。職員主体にならないよう自分ペースでの暮らしとなるよう配慮しケアを行っている。			
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	馴染みの食器や寝具等を使用している。居室に家族の写真を飾ったり、仏壇やタンスを持っている利用者もいる。音楽好きの利用者は電子ピアノを持って来て家族の面会時に一緒に歌を歌っている。又ハーモニカを持って来て演奏する利用者もあり。		Ⓐ 充分にできている Ⓑ ほぼできている Ⓒ あまりできていない Ⓓ ほとんどできていない	・実際に本人の物を家人より持参していただき使用し生活している。 ・希望に沿った環境作りができている。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々の意向要望を聞き取り正月には地元の神社への初詣や要望を取り入れた外出行事を行っている。地元地域の季節のまつりにも参加できた。(北条まつり、地元地区の夏まつり、盆の万灯、秋まつり、など)	・本人の要望を聞き取りし、反応を見ながら状況に応じた対応ができている。 ・地域の情報収集、連携が大切である。		

46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人に苦痛のないよう、好きな事や得意な事、できることを活かした役割やレクリエーションを提供している。歌や踊り、色塗り、ピアノ、ハーモニカ演奏又は買い物など個々に合わせて実施している。			
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	行事やレクリエーション等、日々の関わりの中で職員や他利用者と会話する機会を得ている。職員がいることで笑顔や会話での笑い声が見られている。	(A) 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・職員が介入することで利用者の会話や笑顔がみられる。	
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	地域の運動会、こども園に訪問し交流するなど地域との関わりあり。又施設にボランティア活動が増え交流することができている。喫茶花束では地域の知り合いから声をかけられ会話する機会にもなっている。	・本人の気持ち、地域のマッチングが大切である。 ・継続していくことが必要。 ・自分なりの意志により状況に応じた対応をとっている。		
49	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	GH にいることで、地域の人々との交流の機会がもてたり、職員と会話することで表情が和らぎ安心できる場面が多い。より良い日々を送れるように専門職とも連携しケアに繋げている。	・家族としては在宅にいる時よりもはるかに笑顔が増え楽しく暮らせる機会が増えたと感じていて感謝している。 ・地域だけでなく職員との関係性も大事になってくる。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・職員も環境の一部だと考えることが大事で信頼関係を築いていく。 ・利用者と家族が安心して暮らせるような支援の継続に努めてほしい。ここに入って良かったと思えるグループホームであってほしい。